

環境への取り組み

Initiatives for the environment

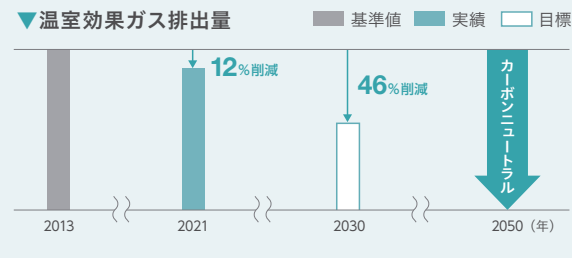
環境中長期目標

地球温暖化防止への早急な対応が世界的な課題として認識される中、ニッタグループでは日本政府が目標として掲げた「2050年カーボンニュートラルの実現」に貢献することで社会的責任を果たし、企業価値の向上を図るために「温室効果ガス削減に関する基本方針」を定め、取り組みを推進しています。

省エネ法、温対法に基づくエネルギー削減、LED化推進などの環境に配慮した生産の取り組みにより、2013年度対比2021年度実績で12%排出量削減を実現しました。今後、再生可能エネルギーの積極的な活用、廃棄物の削減や環境にやさしい製品開発の推進を行うことで温室効果ガス排出量削減を行って参ります。

〈温室効果ガス削減に関する基本方針〉

ニッタグループは、生産段階におけるGHG排出量の削減に関する基本方針として2030年度までに2013年度対比46%削減、2050年までに「カーボンニュートラル実現」を目指して、取り組みを推進します。



環境対策投資

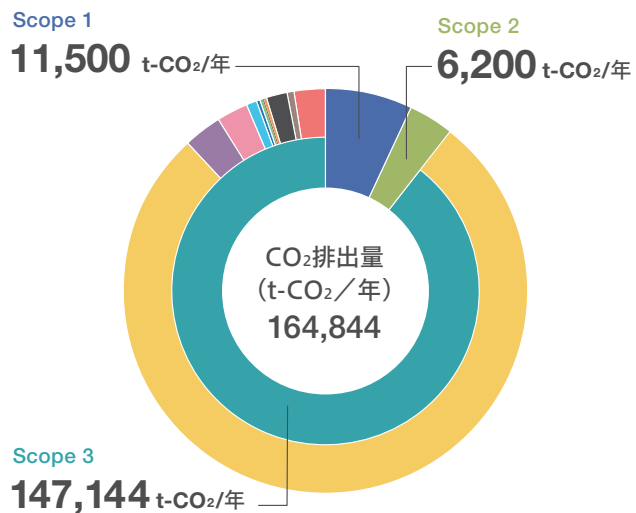
ニッタグループでは、照明器具のLED化への移行を加速し、トップランナー制度対象機器の採用を積極的に推進するほか大型空調機の更新においてセントラル空調からゾーニング空調へ移行を進め、さらに計画的な受電設備の更新を行っています。また、工場では現状に合致したトランス容量を設定し損失が少ない高効率トランスを採用するだけでなく、製造設備では高効率モーターを

採用し、準備状態での電力負荷低減の取り組みを行っています。また現在排出しているCO₂量を算定し、省エネおよび対環境性等を意識した取り組みを行っており、今後、社内で独自に炭素価格を設定し、インターナルカーボンプライシング制度の導入を図る計画です。温室効果ガス排出削減効果を金額換算により、環境負荷低減につながる設備投資を導入しやすくする内部環境の整備を目指します。

温室効果ガス排出量の削減に向けた取り組み

カーボンニュートラル実現のためには、自社での温室効果ガス排出量だけでなくバリューチェーン全体での排出量を削減することが必要となります。ニッタグループでは、バリューチェーンでの排出量を把握することを目的として、2019年度の温室効果ガス排出量を試算しました。なお、この結果は国内のみの算定としています。その結果、排出量はScope3でのカテゴリ1「購入した製品・サー

ビス」での排出量が最も多く、原材料起因での排出量を削減することが重要であることが明確となりました。主要仕入れ先へは環境への取り組みについてアンケートを実施しています。アンケートにて温室効果ガス排出量削減、サステナビリティへの取り組み状況を確認し、今後、仕入れ先との対話を深め、サプライチェーン全体でのScope3での削減目標を設定していきたいと考えています。

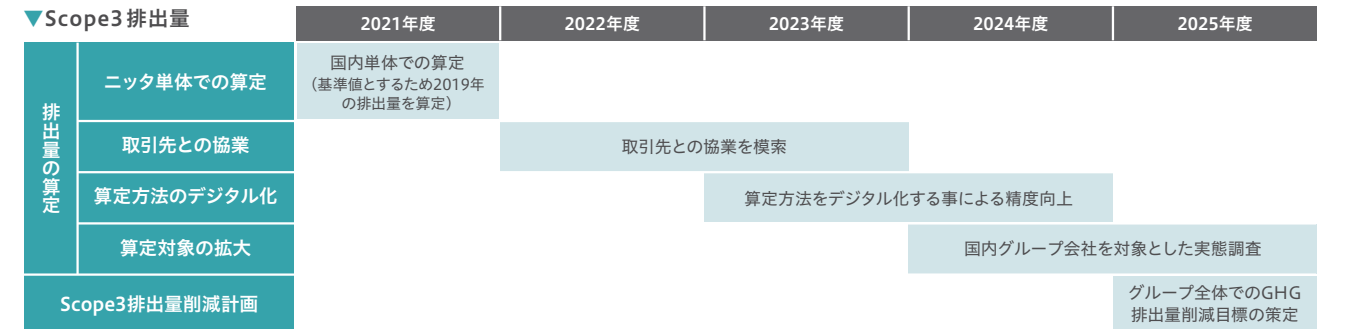


▼Scope3カテゴリ

Category	項目	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /年)
カテゴリ1	購入した製品・サービス	129,680
カテゴリ2	資本財	4,520
カテゴリ3	Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	3,775
カテゴリ4	輸送、配送(上流)	0
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	1,401
カテゴリ6	出張	145
カテゴリ7	雇用者の通勤	460
カテゴリ8	リース資産(上流)	12
カテゴリ9	輸送、配送(下流)	450
カテゴリ10	販売した製品の加工	0
カテゴリ11	販売した製品の廃棄	0
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	2,478
カテゴリ13	リース資産(下流)	804
カテゴリ14	フランチャイズ	0
カテゴリ15	投資	3,419

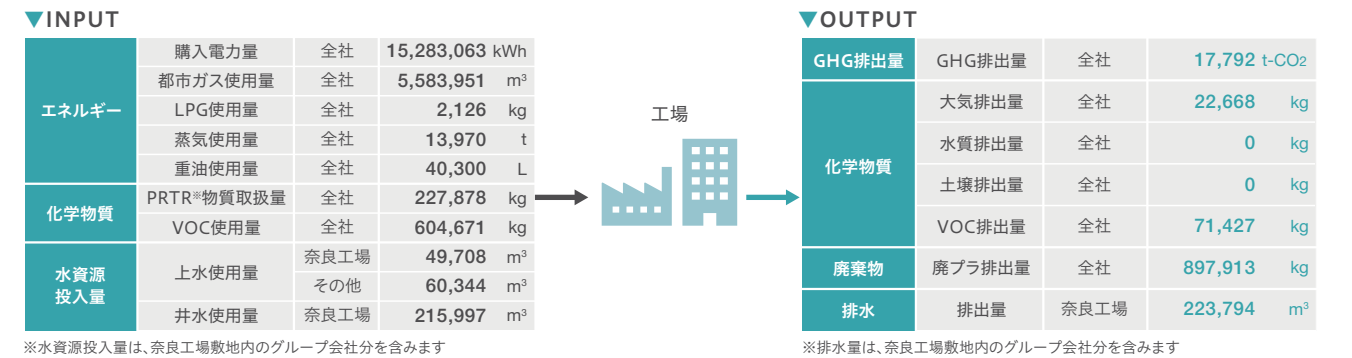
GHG(温室効果ガス)排出量削減の目標について

Scope3のGHG排出量は、現在ニッタ(単体)を基準として算定のみとなっています。今後、確立した算定方法を基にDX化する事で簡便に算定できるようにし、グループ関連会社への展開を行い精度を高めていきたいと考えています。また、取引先との対話を深め、サプライチェーン全体でのScope3の削減にも取り組んで行けるよう準備を進めています。



マテリアルフロー

当社の2021年度のマテリアルフローは以下の通りとなり、発生する環境負荷を低減するために目標値を設定して活動を行っています。なお、GHG(温室効果ガス)排出量については、2021年度からScope3の算出を実施しましたが、新型コロナウイルス感染症による経済的影響のない2019年度を基準値としました。今後2019年度の排出量を基準値とし、GHG排出量削減活動に取り組んでいきます。



▼エネルギーの経年変化

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度
購入電力量	kWh	14,440,265	14,192,112	15,283,063
都市ガス使用量	m ³	5,278,358	5,226,655	5,583,951
LPG使用量	kg	2,401	2,409	2,126
蒸気使用量	t	17,505	18,277	19,370
重油使用量	L	40,410	39,140	40,300

▼水資源投入量の経年変化

